

自由世界から権力競合へ

東京大学大学院教授
藤原 帰一

- *「アラブの春」が生んだ破綻国家
- *欧米諸国主導に挑戦する中国とロシア
- *米国の影響力の後退が加速する
- *統治の不在が生み出した「イスラム国」
- *イラクからの米軍撤退は早過ぎたのか
- *欧州諸国が抱えるイスラム系移民問題
- *紛争の火種が残るロシアと欧州
- *「核心的利益」が周辺国と衝突
- *大国間の軍事的な競合が復活
- *抑止力だけでは紛争拡大を防げない



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）
明けましておめでとうございます。今年も、皆様のために一流の講師をそろえて、毎週開催させていただきまますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

本日は今年の最初ということになります。年明けから国際情勢が緊張して、さまざまなことへん難しい時期に入ってきているというように思います。その意味で、皆様お馴染みの藤原先生に世界の動きを読み解いていただくとうと、お招きいたしました。改めてご紹介する必要はないと思いますので、早速お話を伺いしたいと思います。（拍手）

藤原 帰一
藤原 新年明けましておめでとうございます。

経済倶楽部でお話をさせていただくことを改めて感謝申し上げます。と言いながら、新年早々、楽しくない話題をすることになると思われます。現在の国際情勢をどう読み解いていくのかということ、大きな流れをつかみながらお話をしていきたいのですが、現在の状況は大分厳しいですね。

大まかに言えば、政治的な意味で国際関係に不安定をもたらしかねない地域として、一つには中東と北アフリカの地域、二つ目にはロシアがあります。このロシアには旧ソ連圏まで含めて考えていただきたい。バルト三国やウクライナです。さらに三つ目は中国です。この三つを中心としてお話をしていきたい。テレビでは、要望があるのはアメリカと朝鮮半島と中国だけ。